

昭和五十六年二月二十五日発行

# 会報

第十三号

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

## 会 報 第十三号

昭和五五年度を振り返って（写真） .....	1
あいさつ ..... 理事長・石川文治 .....	3
岩手県鍼灸師会日誌 .....	4
御挨拶（五五年度総会） ..... 胆江・菊地安夫 .....	5
第六回日東医学会・三重学術大会に参加して ..... 副理事長・越本政男 .....	6
宮古師会七十年の歩み .....	10
未来はどうなる ..... 花巻・一会員 .....	15
文 芸	
短歌 .....	
小倉栄一（久慈） .....	17
藤田誠一（北上・和賀） .....	19
飯田直志（釜石） .....	20
千葉米蔵（花巻） .....	20
川柳 .....	
飯田直志（釜石） .....	20
越本政男（釜石） .....	21
俳句 .....	
南川 忠（北上・和賀） .....	21
千葉米蔵（花巻） .....	22
師会だより	
北上・和賀 南川 忠 .....	22
盛岡 三沢五郎 .....	24
宮古 中村強真 .....	26
一の関 北峰忠志 .....	27
胆江 菊地安夫 .....	29
気仙 佐々木吉男 .....	30
花巻 多田兼雄 .....	31
釜石・越本政男 .....	33
事業部より .....	35
MEMO .....	38
編集後記 .....	41

# 定期総会

水沢市・翠明荘に於て

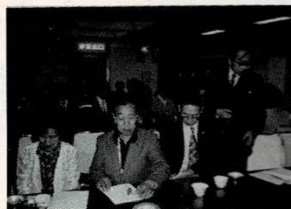
5月11日

昭和五五年度を振り返って

下佐常務理事→  
庶務報告をする  
下佐常務理事  
高橋議長



会議中 →



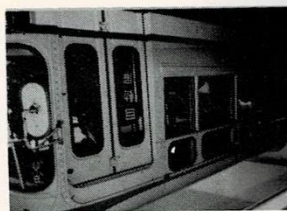
祝詞を述べられる  
椎名素夫代議士 →



会議終了後の  
翠明荘玄関前 →



迎送の車 →



鈴木総理誕生  
七月十七日



総理祝賀パレード(釜石) 7月20日

# 学術講習会

9月27・28日

盛岡市  
金属会館に於て

長尾博士の講演を聴く会員→



理療研習会

10月12日

盛岡市

総合福祉センター  
に於いて



前列左から二人目長尾博士  
協理事・右端石川理事長  
後列左から波川副理事長・桜井盲



慰問奉仕治療

理療研習会

講議する川村智夫氏

慰問奉仕治療をする  
釜石師会員

10月4日



釜石師会員  
老人ホームに慰問奉仕する



会員の皆様にはますますの御元気で業務にまいしんの事とお慶び申し上げます。

五月十一日には水沢の翠明荘まで岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会の総会にお出で頂きありがとうございました。約八十名の出席でしたが、衆議院議員推名素夫先生がお出でになり祝辞を頂き業界に対し関心を持たれ心強いことでした。

六月二十二日の衆議院、参議院のダブル選挙では本会の顧問鈴木善幸先生が当選され、総理大臣になり並びに業界で推薦した参議院議員丸茂重貞先生が当選され今後の保険関係等にも明るい見通しがつき、皆様と共に喜びにたえません。

五十五年度最大の目標は全鍼連の法人化でしたが、七月十一日に厚生省立会いのもとに全鍼連、日鍼連、日盲連の三団体会護がもたれ、合意書がつくられ十月十一日に認可になる予定でしたが、話しあいが見つからないまま延期になってしまいました。執行部では実現にがんばっております。

学術講習として今年度は鍼灸とマッサージにわけ、医学博士長尾栄一先生の鍼灸マッサージの臨床についてのお話しを頂き、又東鍼連会長川村智夫先生の頸腕症候群、五十肩、腰痛、膝関節、脊柱等の矯正等について実技指導を頂き臨床に有益でした。

十一月十六日宮古師会では創立七十周年記念式典を盛大に挙行され、石川、渋川副理事長、菅野顧問等出席させて頂き感激でした。益々の御発展を祈ります。

スモンの県との契約はスモン患者を扱った施術者と契約することになりました。

鍼灸試験委員には前回通り三沢五郎氏、猪ノ口富蔵氏にお願いしました。

会員皆様方の益々の御発展をお祈り致します。

-3-

## 岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会 昭和五五年度日誌

五月四・五の二日間に亘る全鍼連定期総会に越本副理事長出席。

五月十一日 水沢市表小路「翠明荘」に於いて五五年度の定期総会を午前十一時三十分より開催

五月十二日 知事の所管に属する公益法人の現状調査の回答を知事に提出する。

五月十六日 昭和五四年度事業、決算及び昭和五五年度の予算の届出文書を知事宛に報告。

七月十三・十四日 昭和五五年度東北師会長会議及び昭和五五年度（第三四回）東鍼連総会が宮城県松島町プリンスホテルに於いて開催。石川、渋川、越本の正副理事長出席、その他会員多数が出席した。

七月十七日 本会顧問の鈴木善幸先生首相に就任され、この日鈴木内閣誕生する。

八月十日 昭和五五年度常務理事会を盛岡市さくら会館に於いて開催。

八月三十日 仙台市に於いて開催の全鍼連会長・関野氏を囲んでの東鍼連懇談会に、石川理事長、渋川副理事長出席。

九月二三・二四日 東京都の日本都市センター及び全鍼連会館に於いて開催の全鍼連臨時総会並びに社団法人設立総会に渋川副理事長出席。

九月二七・二八日 岩手県盲人福祉協会と共催で、盛岡市金属会館に於いて学術講習会を開催。

十月十二日 理療学術研修会を盛岡市総合福祉センターにて、東鍼連会長川村智夫氏を招いて開催。

十月二十六日 仙台市宮城県民会館に於いて開催の、東鍼連主催の学術講習会に石川理事長、越本副理事長及び多数の本会会員が出席、受講する。

-4-

十一月十五・十六日 第六回日本東洋医学系・物理療法学会・三重学術大会が、三重県鳥羽市・市民文化会館で開催され、越本副理事長、下佐常務理事および三枚堂さんの三名が参加。

十一月十六日 宮古師会創立七十周年記念式典に石川理事長出席。

昭和五六年一月十日 昭和五五年度第二回常務理事会並びに岩手県盲人福祉協会の首脳との懇談会を水沢市内「翠明荘」に於いて開催。

一月二十一日 全鍼連より社団法人が認可された旨の電報を受信する。

### 御挨拶（昭和五五年度総会）

胆江師会会長 菊地 安夫

会員の皆さん、御変りなくお元気で業務に学術の向上に、お励みの事と拝察申し上げます。

さて、去る五月十一日、社団法人として初の地方開催の岩手県鍼灸師会の総会を、緑と鑄物（イモノ）、そして歴史の街水沢で開催の折には、県内各地より会員多数の御参加を頂き和気あいあい盛会裡に無事、終了出来ましたことは関係機関の御指導と県本部の多大なる御援助と共に、会員各位の絶大なる御協力の賜と、胆江師会員一同と共に深く感謝申し上げます。総会準備委員として、県内各地より態々お出でになる会員の御期待に添う可く、鋭意努力いたしましたが何分にも係員が不馴れなため、何かと御不便、御迷惑をお掛けした事と存じますが、この点は何卒御容赦くださる様御願い申し上げます。

今や、吾業界には種々の難問題が山積しており是等を解決するためにも一人一人が豊かな知識と高度な技術と更に正しい判断力を備え持ち、会員同志が固く手を握り邁進しなければならないと思います。大いに頑張りましょう。

終りに、会員の皆さんの御健勝をお祈りしつつ、御礼の御挨拶と致します。

昭和五五年十二月一日

会員各位殿

-5-

### 第六回日本東洋医学系物理療法学会三重学術大会に参加して

副理事長 越本 政男

晩秋、十一月十五・十六の二日間に亘り、日本の歴史の古里、武将たちが夢とロマンを賭けた壮絶な人間ドラマを演じた舞台、そして古代より多くの伝説を秘めた風光明媚な、伊勢・志摩国立公園、伊勢湾の南に大少の島々を抱く様に、一方は山に迫られ何処か三陸の街に似た真珠と伊勢エビで名高い港街、鳥羽市文化会館に、五百余名の会員を集め第六回日東医学会三重学術大会（会長関野光雄、大会運営委員長三重県鍼灸マッサージ師会（社）会長森谷（もりや）三次が開催された。岩手からは私と下佐理事・三枚堂さんの三名に盲学校の鷺坂（さぎさか）先生も加わり四名が参加した。

今回のテーマは「生命の尊厳と東洋医学系物理療法の果たす役割」で、後援は、文部省・厚生省・三

重県・鳥羽市・三重県医師会・全鍼連・全日本鍼灸学会・理教連・全鍼連中部ブロック師会連盟・三重県鍼灸マッサージ師会・明治東洋医学院・関西医療学園・葛谷学園・三重県視力障害者協会・朝日・読売・伊勢・中部の各新聞社・中京テレビ放送・医道の日本社等。

大会は十五日午前八時半に開会宣言・関野会長・森谷大会運営委員長の挨拶のあと、来賓として元厚生大臣の野呂代議士より祝辞があり、全鍼連の法人化について頼もしい発言があり参加者の大拍手を浴びた。大会は二日間とも九時から十七時までで僅か四十分の昼食休憩があるだけの日程で行なわれたが、盲業界に危機感があるだけに、参加者は熱心に聴講していた。発表されたのは特別講演五題・シンポジウム一題・研究発表二十八題であった。

-6-

### 研究発表

今回の研究発表の特徴は、盲学校・鍼灸学院・病院等で、それなりの設備と大量の被験者を持つ有利さもあって二十八題中の半数を占めていた。盲業界に危機感が漂いつつある今日、盲学校が鍼灸の研究に真剣に取り組んでいる姿は喜ばしい事だ。その半面個人臨床家達の研究の至難さが感じられた。然し個人臨床家達の発表には敬意を表したい。個人臨床家たちは限られた患者を対象に研究を集めていく姿は、苦悩そのもので尊いと思う。この方々の発表は決して独りよがりではなく追試可能なモノが多かったが、それだけにこの経穴を使えば絶対効果がありますよと言うキメ手を欠いていたようだ。でもこの方々の発表は誰にも出来る治療法であり、私なりの収穫があったと思う。

此の学会は盲業界唯一の学会であることを忘れて、余りにもスライドを使い過ぎている。口頭で表現する事を研究して欲しい。二日間、つまり合計十六時間のうち、昼食八十分を除いた時間内で特別講演五時間、シンポジウム一時間を除いた残りの時間の、研究発表は本題に入る前の「まえおき」に時間の大半が失われるという有様で、肝腎な処は学会誌にと言う場面もあり、この点についても一考を学会主催者に要請したい。

### 特別講演

筑波大学名誉教授・芹沢勝助先生は「東洋医学に於ける技術教育振興の一試案」と題して、現行教育機関のあり方、鍼灸の研究と学会のあり方に鋭い批判と分析を述べられ、今後の問題として私立教育機関（専修学校・各種学校・養成施設）と公立教育機関（主として盲学校）の整備充実に就いて、高等教育機関、即ち三年制短大・四年制大学・大学院コースの必要性と問題点。卒後研修コース創設の必要性と具体的な未来像、医療界に臨床技術者として臨む鍼灸師等のあり方、特に鍼灸等と研究と学会のあり方等では鍼灸師である研究者と、医師である医学者が主従の関係でなく共存出来る「漢洋和合・漢洋併療」の実のあがる学会が、どの様にすれば出来るのかを例の芹沢節調で述べられたあと、中国の鍼に就

-7-

いて批判的であった先生に対し敬遠気味であった中国が、先生を招聘する事に決まり近日中に中国に出かけられるとのことで、先生が指導している研修生と共に中国に行かれるが、但し鍼を学ぶ為にゆくのではないと強調された。先生が中国より帰朝された後のお話が亦楽しみとなった。

三重大学名誉教授、勝田穰二先生・「ねむりの生理」。本来われわれには飲食欲・性欲と並んで本能的な眠りの欲求が備わっている。然し感情が昂ぶっている時とか、精神興奮が静まらない時には、却って

眠れない。その一面寝ようと思わなくても眠ってしまう場合もある。眠りの生理を平易に説き起こし、眠りの「定義」を多くの学説を引用しつつ、眠り型には普通の睡眠と賦活睡眠とが区別されるが、前者は肉体と脳の両方が並行して休養している時であり、後者は特続的な活動をする一部の運動系の大休止であると同時に、神経系内の統合的相互連絡の休止でもあるのではないかと考える。その他興味ある多くの話が続いた。

福島引道氏（日本東洋はり医学会会長）は、「素難医学の今日の実践」と題され演説的口調で講演されたのが印象に残る。

本来私は高い壇上で講演するより、皆様の前で実際の臨床を見て貰い度いが、今日それが出来ないのが残念だと前置きされ、二千年前に書かれた「素問」・「靈枢」・「難経」を、環境悪化のひどい現代に通用させる臨床開発に努力をして、一つの実技・治療法を開発した。(1) 片方刺しによる相克調整の治療方式、(2) 脈証・腹証・一貫性、(3) 生きた「ツボ」の取り方と脈状に応ずる手法等が具体的症例を挙げての熱弁は聴衆を魅了した。

黒沢雄一郎（理学博士）氏、元明治薬科大学教授は「健康と酵素」と題され講演された。酵素が主体に仕組みられた生命現象の中で、最も中心的な役割を果たしており、酵素の働きを如何に十分に発起させるか、その方途について、また「酵素」阻害物質と病態との関係についても述べられた。

-8-

最後の講師は、此の学会では馴染みの深い、現参議院議員（無所属）・名古屋大学名誉教授の高木健太郎博士（社団法人全日本鍼灸学会会長）は「循経感伝現象について」と題して講演された。現在まで経絡の解剖学的・生理学的確かな存在道程は知られていない。この事が鍼灸の科学的根拠の法弱性を示し、ひろく医師医学者の支持を得ていない最大の原因になっている。

しかし、従来も経絡の存在を相像させるようないくつかの現象が見い出されており、これらの本態を明らかにすることは現在最も大切な事である。経絡・経穴に相当して皮電点、良導絡のような皮膚の電気低抗の変化が存在すること、丘疹・発疹が出現することなどは其の例である。この他に茲に述べようとする循経感伝現象がある。これは或る経穴に刺鍼すると其の部から経絡に沿って異常感覚あるいは「ひびき」が両側に伝わって行くという現象である。その速度は1・2 cm秒、早くても毎秒10 cmである。一定の幅を有していて、ある臓器に達するとある変化を起し、頭に達すると深い睡眠に陥いることもある。走行の途中で強圧・局所麻酔を加えると、その進行を止めることが出来る。刺鍼刺激をやめると刺激点に戻ってくる。このような現象は多くの健康でも観察されるので一つの生理的現象と思わざるを得ない。この探究は経絡の生理的解釈に大きい示唆を与えるものと述べられ、聴講者に対して「皆さん脳のことを就いて勉強して欲しい。私と皆さんとが一処になって脳を語ることが経絡を解明する手がかりになる」と結ばれ、名講演は聴講者に深い感銘を与え、二日間に亘る大会のフィナーレを飾った。

#### シンポジウム

シンポジウムは「自然良能における三療の占める地位とそのメカニズム」と題してで講師は、日東医学会会長の関野光雄氏と茨城県立盲学校教諭・遠藤唯男氏に西条一止筑波大学助教授が加わり三氏が各々独自の見解を述べた。

#### 学会総会

-9-



総会は事業・決算・(会費値上案を含む) 予算案を審議了承したあと、芹沢勝助筑波大学名誉教授を日東医学会名誉会長に決定した。昭和五六年度は広島県で開催する事を最後に決定し万場拍手の裡に総会は終了した。

### 宿泊

大会前日の昼過ぎに、東北の晩秋の空と違った明るい青空の一杯広がった鳥羽市に着いた。実に釜石から十七時間の長旅である。

旅館は鳥羽湾が一望出来る高台にある扇芳(せんぼう)閣と言う名の六階建ての旅館で、六階の大浴場で見える夜景は素晴らしかった。また料理も素晴らしく良かった。大会第一日目の夜の宴会では、大広間のステージに舟を型取った調理台に、「大マグロ」が乗せられて三人の板前が見事な手さばきで解体してゆく光景は正に豪華そのもので、この旅館ご自慢の「土手こい料理」とか。宴席の膳に配られたブツ切りの厚いマグロの刺身は格別の「うまさ」であった。

お手伝いのお姉さん方の言葉がまた優しく嬉しかった。関西弁は女性のためにあるようだ。

### 結び

昨年の京都と違って、大会会場までの往復をマイクロバスで送迎してくれたり、二日間の会場での昼食の弁当を各々違った店に作らせたり、三重県師会の方々の暖かい心使いが感じられた。最後の夜は三重県師会の正副会長さんと同室となり、大会開催までの苦労話の数々を聞かされた。三重県師会の皆さん、ほんとうに御苦労様でした。大会終了後の十七日は鳥羽湾めぐり、ミキモト真珠島・二見ヶ浦・伊勢神宮の内宮・外宮を観光して午後三時前、三日間の全日程が終了し、近鉄宇治山田駅前解散となり、帰路についた。

## 宮古師会七十年の歩み

宮古師会 野沢 孝一

当師会の七十年の足跡を振り返って見ると、これと言うような目覚ましい発展を世の中に示すことは

-10-

出来なかったが、離合集散を恒とする同業団体の中にあつて小さな会ではあるが、よく中絶・衰退することなく今日まで歩み来りしことは、会員の一人として大なる喜びと誇りとを禁じ得ないものがある。

然し、此の様な輝かしい歴史と誇る可き伝統も一朝一夕に出来上ったものではなく、これには創立当初からの多くの先輩が会員の一致協力と友愛を第一主義とし、あらゆる苦難を克服して築き上げた努力の賜物である事を我々会員は忘れてはならないのである。

創立七十周年を迎えるにあたり多くの先輩に対し改めて襟を正し敬意と感謝の誠を捧げるものである。

悠久無限の永き世の中の出来事は恰かも川の流れの上に現滅する水泡の一ツツの様なモノで結びては消え、消えては亦結びて、そのままきる処を知らない、そしてその一ツツの出来事は次に出現する色々な出来事を意識すると共に薄れ去り忘れ去りて、いわゆる古事となり昔がたりとなって逝く。此の連続を歴史と言うのではないだろうか。私は当師会の沿革の歴史を紐解くに当り残念に思う事は、古い記録と資料が昭和二十三年のアイオン台風に於いて、時の館下会長の許で流失されたので、私が先輩から、お聞きした当師会の足の跡、消えさりし水の泡の一ツツを思

い起こしペンを執る事にした。

我が師会の歴史は之を三期に分けて述べる事が出来る。

その上期は、いわゆる「申し合わせ組合」時代で、規約なく、会費なく、集会日なく、組合の目的は只、業者相互の親睦と治療料金の協定とにあった。

次代中期は大正九年六月十七日、時の柿沼県知事より組合創立の認可証を下付された時から、昭和十六年十一月十六日県鍼連設立に依って、その一連の一師会として、之に加入す可く宮古鍼灸按摩組合を解消したる時までである。

現代期は言う迄もなく県鍼連宮古師会の看板を掲げてから今日に至るまで。前期、明治の末期から大

- 11 -

正の初期にかけて宮古町鍼ヶ崎にも鍼按の業者もようやく十指の数に至った。その中には学技錬達の士も出て、広く世人の信頼を受け鍼按の価値と存在を認められる様になった。

鍼術では藤田正仙（しょうせん）・毛藤末吉・大沢弥平氏等が主なる人で、是等の人々は何々先生、或いは鍼医さんと呼ばれて居た様である。その頃マッサージ師は一人も無く、按摩術專業の人としては、畠山久博（きゅうはく）・城内（じょうない）孫太郎・田代真一氏等が広く上下の信頼を集めて居た。

その頃「江戸で吉原・南部の宮古・宮古まさりの鍼ヶ崎」と広く知られた鍼ヶ崎の上（かみ）町の紅華街に「やながわ」と染めなした「暖簾」の料亭があった。主夫婦が鍼按を非常に信頼し、細越忠吉と言う鍼按師を下宿させて置き、殆んど毎日のように治療を受けていた。また「流して」来る按摩師をも誰彼の差別無く呼び招いて治療を受け、茶菓を供し、好む人には酒肴等をもてなして厚く之をいたわった。そうした事から、此の料亭が何時しかか、按摩師の集会所の様になって、時には三人も五人も集まって雑談に時を過ごすを例とした。そして、つい誰が発言するともなく按摩組合を設けてはと言う事になった。

宮古に於ける按摩業者の結集が鍼灸業者のそれに先んじた所以は此処にある。その頃磯鷄（そけい）村出身の盲人で、鍼按兼業を持って鍼ヶ崎に開業していた佐藤玄洋と言う業者があった。北海道一周まで駆け廻って来たと言うので、非常に見識張った天狗様であったから、按摩組合組織の匂いを嗅んだから之を黙視するに忍びず直ちに「長」たらんと欲して、暗躍を始めたが、業者の信望もとより少なく、野望空しく遂に其の意を空しくして去ってしまった。其の後間あらずして田代真一と言う按摩師が、自からも望み亦二、三の業者からも囑されて「長」となったが、我意頑直（がいがんちよく）の人にして衆人の言を持ち得ず、衆決を容れず文字通り独裁専横（せんおう）の人、それでも明談確行（めいだん・

- 12 -

かくこう）の人であつたら難ずる事はなかったが、無知文盲・世事（せじ）に暗かったから、事の運びの拙なさは言うまでもなく斯くした有り様で組合員の衆決は涉々しくなかったが、明治四三年ここに宮古按摩組合が誕生したのである。

その後大正の初期になり、「やながわ」の料亭の近隣に鍼按兼業の平賀良庵師が花巻から移転し来りて開業した。この人は温厚徳実・気宇廣大（きう・こうだい）にして情感に走らず、よく人を容るるの量を備え狭い商売根性や同業者そねみと言った事がなかったから、同業者誰からも好感を持たれた。それに非常に酒をたしなみ、旦夕盃を置かざる人であったから、奥さんは儲けの分を主人の酒代にと言う

算盤で「やながわ」の程遠からぬ小路に、ささやかな飲食店を開いた。酒を楽しむ者、亦話題の誰彼・忽まち此の一パイ屋に集まる様になり、鍼灸師の業者の集会所も何時しか「やながわ」から此処に移る様になった。その頃、切通（きりどおし）の小坂を越えて（三日もおかずに此処へ来る業者で、平賀氏と「好一對」、良く呑み、良く放談する神林徳太郎があった。磯鷄（そけい）の生まれで幼くして明かりを失い、両親祖父母の慈愛の許に育ったから、我儘にして豪放磊落・小事に拘泥せず感情に走らずといった大器量人であったから、平賀氏とは意気全く投合、二人いつしか肝胆相照らす知己となってしまった。二人は共に飲み共に語った。平賀氏は今や我々鍼灸業者も公の認むる処となり内務省令の発令を見、各県施行細則の布告を見た今日、我々も何時までも模糊とした有名無実の組合では駄目だ。今は県都盛岡・そして花巻・一ノ関でも地方長官の認可を受ける可く準備を進めていると言う按配で、神林氏を説得した。神林氏も、それに賛同した。宮古鍼灸按摩組合を創立す可く構想を練る事になり、先ず会則の案文作成に執りかかった。折しも長い出張先から帰って来た城内孫太郎氏も、各地にあって業界の情勢に接し、同業組合創立の急ぐ可き事を痛感して帰って来た矢先、平賀・神林氏の話聞いて、然らば之に協力と言うより寧ろ進んで主役を務めてくれたのであった。

-13-

城内氏は先ず以前からの業友であった「やながわ」の細越氏は「如何にも公的に認められる様な組合を創らなければならない事は、自分も感じていた。勿論自分も協力する。然し組合長に誰を内定しているか、それが先決問題だ。組合長に頂く人が、みんなに迎えられない人であつては、今まで通りだ。君、それから決めてかかれ」と、キツイ一矢である。短直な城内氏は「然り然り大いに然り、君も来い」と言う調子で細越氏を誘い、平賀氏宅を訪れた。折良く神林氏も居合わせたので早速、組合長を誰にするか、その内定をする役になって見ると、平賀・神林氏は之まで通り、田代氏をと言ひ、城内・細越氏は「それでは改革にも改造にもならない。田代氏を挙げて再び頑迷の絆に引きずられるのでは、我等二人は加入しない」断呼たる反対である。平賀・神林・年長側は流石に慎重に考えて「如何にもそれは、もつともだ。然し田代氏の気性はあの通りだから平役員では治まるまい。必らず「あとあと」まで邪魔をする。ここの処を無難に通すには、一先ず彼を「長」に頂き、我等四人は輩下となって彼の過ぎたる処は、これをたしなめ及ばざる処は之を補佐し、会長の一年も過ぎさせて然る後、長老とか顧問とか名をつけて、うまく祭り上げてしまう事が、さわらぬ神に祟りなしと、ゆくではないか」。理を分けて言われて見れば、之も、もつともである。二人は童子の如く快諾これに賛同し、急ぎ総会を開く事に一決し田代会長の出席を求めた。かかる事前会議の開かれていた事は知る由もなく、田代会長は、平賀氏宅を訪れ、総会の諸準備の協議をした。時に大正三年九月某日であった。

その後、平賀・神林・細越氏等が交代に会長を務め鍼灸師をも入会せしめた。そして大正九年六月十八日待望の組合設立の認可証を、時の柿沼武夫県知事より下付させられ、茲に我が師会も公の認むる処となり、名実共に宮古鍼灸按摩組合として更始の発足を見た。今は三療師の監督官庁は保健所であるが、戦前は警察で取締っていた様である。

創立祝賀会は警察署長を招待し、料亭「やながわ」で七月十日、盛大に開かれた。この日から毎月、

-14-

十日を集会日と決定し、昭和四十四年まで続いた。これより中期に入るのだが、紙面が限られているの

で、これにてペンを置く事にした。

昭和五十五年師走十八日記

## 未来はどうなる

花巻師会 一会員

全鍼連情報を読んで……またもや階段から突き落されたような、そんな腹立たしさを私一人が感じたのだろうか……もう一步と言う詰め段階に入って居た全鍼連法人化は、日盲連・日鍼会・全鍼連三者の協定書の解釈の「くいちがい」に依り、またもや実現の見通しが暗くなってしまったようだ。裏切られた様な気さえする。何故吾々の類似団体は足の引ッパリ合いを、こう迄しなければならぬのか。みんな仲良く助け合って足並みを揃えて行かなければならぬ瀬戸際に来ているのに……何故・何故・この腹立たしさを末端の会員は何処へブツければいいのだろうか。

法人にならなければ亦保険取り扱いもお預けを喰うことになると思う。保険取り扱いを願って、日保連に入った花巻師会の会員は、岩保会の結成以前に半分以上の脱落があったが県鍼按師会・全体の中でも可成りの脱落者が出て居たと思う。こんな状態が続くと、岩保会から脱落者が出るのではないかと思う。そんな事のない様に理事長は責任を持って善処して欲しいと思う。法人を得なければ、社会で言う「人格を得られないと言う」が、一会員の私に言わせれば、そんな事は問題ではない、世知辛い当節、多額の会費を払って、何の魅力もメリットも無い会など何時、抜けても淋しくない。これが一会員の正直な気持ちです。でも、会員の多数の皆さんが、こんな事を考えたとしたら大変です。組織は破壊されてしまいます。その様にならない様に、理事長を始め、執行部の皆様方の英知を集めて奮闘して下さい。

-15-

こんな時に若し会費を値上げする様な事態になったら、益々「会離れ」するのではないだろうか……私は会員の事で疑問に思っていることがある。それは一つの治療院で夫婦で、亦は兄弟で営業している場合です。県鍼按師会では、代表者の一人は、一人前の会費で、あとの一人は半額で良いと言う、何故そんな配慮が必要なのか理解できない。他の職業と違い、吾々三療に携さわる者なら誰でも分かると思うが、二人で営業した場合、三人分の能率が上る。私は一人で営業していますが、患者を二人待たせなければならぬ場合、このうちの一人の患者は「また、あとで」来ますと帰ってしまいます。誰だって長時間待つことは厭だから、でも二人で治療が出来る場合、こんな事はない。患者の待つ時間が少ないからです。出張治療の場合も亦同じ事が言えます。働きさえすれば収入が、それ相当額になるので、そんな配慮は撤回す可きだと思います。若し会費値上げをするのなら、この不合理と思われる点から考慮する必要があるのではないだろうか。色々書きたてて、些か気が咎める思いですが、正直な末端一会員の声として耳を傾けて欲しい。

-16-

文芸

短歌

久慈師会 小倉 栄治

スイセンに混る雑草抜きおれば  
土の香（か）のして春は来にける

春めきて窓を開ければ唐突に  
かけし儘あり風鈴の鳴るあり

フキのトウ味と香りを朝食（げ）にて  
噛みつむかえぬ春の訪れ

三度目の禁煙なれば自からの  
励ます如く決断をせり

声のなく聾の客人会釈せむ  
見えない吾はしぐさに返す

酒止（や）めし八十路（やそじ）の父の此の頃（ごろ）を  
電話で母は細ぼそと言う

十二時を越せば寝つけん気もみつつ  
漣（ひじま）におれば過去の出（い）づ来る

五月雨のおと聞きおれば卓上（たくうえ）の  
くちなしの花しきりに匂う

わが部屋に洗濯物のかけしまま  
梅雨（つゆ）の長さをうとましくおり

梅雨（つゆ）冷えのしづくす音のきこえ来て  
夕べに早く晩酌を飲む

陽（ひ）の射せる小庭（さにわ）に苺のうれるらし  
わが部屋までもあまき香（か）のする

盆なれば帰省の車頻繁に  
ひかりかえしてわが前を過ぐ



遼かより潮騒の音聞こえて  
見えし日のこと想いづるも

腰を伸ばすいとまもなく夕暮れに  
崩るごとくわれ憩いおり

沖よりの靄たちこめし川沿いに  
姿見えねど海鳥の啼く

応募書をわが読みおればたくうえ（卓上）の  
秋の陽ざしは風に乱れる

妻と来て黄昏路（じ）を振り向けば  
遼かの橋に虹かかりぬ

乳母車を支えにしつつ来ぬと言う  
女（おおな）の痛む腰直鍼す

鯖船（せん）の基地なる故の客ありて  
九州なまりを吾家で聞けり

つる伸びて朝顔の花看板に  
霜降（お）りし朝客が見つけり

サルビアは強き花らむ受精して  
今年も咲けり秋立つ風に

遠き日の思い出の湧く此の路に  
菊畑（はた）あらむ風わたり来ぬ

陽（ひ）の匂いほのかに残るほどべにて  
小瓶のビール妻と分け汲む

暑き日の無きままにして秋きぬか  
祭り囃（ばや）子の稽古の音す

受話器とらん手に生花のふれし時  
ほのかにユリの香（か）の漂よいぬ

転勤の友より受けしケイトウの  
花咲く今日に見まかりと聞く

-18-

年暮（ぐ）れを書（しよ）の占いに吾が遊ぶ  
努力をすれば来る年も佳（よ）し

吹雪にて客も少なく此の一（ひと）日  
歌をまとめんと黙し悩める

卓上に生けし菊の香（か）漂よいて  
わが心地よく点書読みおり

北上・和賀師会

藤田 誠一

夏物の商店街はひそとして  
今日も冷夏の霧雨が降る

おちのたゆ人声聞コゆるこの山が  
幼き頃のふる里のごと

山の家（や）の焚火煙り見えねども  
音も匂いもげに懐かしき

通り雨去りたる夕べの笹原（はら）に  
落ちる雫の音は秋なり

見える我小妻の捨てしドン栗を  
もて遊び聞く秋の山風

沢の音紅葉（もみぢ）散る音きこゆるも  
今は見えざる里の秋山

秋の山踏みゆく落葉見えねども  
いまだ忘れぬとりどりの色

北上川沖に大岩いでおるや  
流れに逆らう波音きこゆ

素晴らしき紅葉（もみじ）なるらん歓声の  
あがる十和田の湖畔に我れ立つ

-19-

紅葉（こうよう）を映（うつ）しおるらん  
十和田湖の彼方此方に船の音する

釜石師会 飯田 直志

母病みて心焦れど船足の  
意の儘ならぬ津軽の海は

函館の夜景なつかし曾って見し  
天望台に涙あふるる

増築の月日に終りし仕事場に  
今日の抄（はかど）り妻とまさぐる

香（か）の匂ふ石段登りて聞えくる  
夕闇せまる墓地の盆唄

出治療にネオンの賑い聞え来て  
我身一人哀れに思う

花巻師会 千葉 米蔵

来客や雨霽（は）れければ忘れ傘  
帰宅するなり電話掛（か）け来る

時ならぬ雷ひびく朝まだき  
妻仰ぎ見る早池峰（はやちね）の雪

川柳

釜石師会 飯田 直志

憂うつな顔が家中暗くする

豊漁に湧いてる浜の不精ヒゲ

駆け足の如く一年通り過ぎ

大掃除出て来た「文」にくすぐられ

-20-

両方を立ててやりたい板ばさみ

目標の三分に満たぬ預金帳

軍隊で鍛えてやり度もやしっ子

理窟では解決出来ぬこの不思議

見た眼には豪華な家もローンに泣き

敗戦が自由と平和作りあげ

釜石師会 越本 政男

心中の記事多くなる師走かな

講習に出ずにテープ貸せとは虫がいい

ボーナスの無い吾業を妻なげき

今年こそ今年こそで亦暮れにけり

八十年聖徳太子また目減り

俳句

和賀・北上師会

南川 忠

テープ聞き学ぶつもりで居眠りし

庭先の色づき紅葉（もみじ）に霜ひかり

冷害の稲束とりて涙ぐみ

初雪や山すそまでも染めにけり

赤い聞く初雪かむりうす化粧

-21-

花巻師会 千葉 米蔵

松島や集（つど）いる同志語る宿

大（たい）輪の菊一輪の花香り

家路行くせせらぎ鴨の飛ぶ羽（は）音

炬燵いり子供等（ら）アイス喰べ居りし

折り折りの便り子を待つ親ごころ

年輪のめぐるが如き師走かな

師会だより

北上・和賀師会

会長 南川 忠

今年は低温と秋の長雨のダブルパンチを受けて、農家は大変な冷害の様です。西和賀地方は山間部が多いため、米は良い処で一アールから一・二俵で全然、実の入らない処も多く自分の家で食べる米すらなく、サラリーマン同様に買って食べなければならない処もある様です。また、米ばかりでなく雨のためにワラも乾燥せず腐った状態で家畜の牛の敷きワラもなく、酪農にも大変なようです。でも、冷害対策として共済金やら救済事業やらで、その日の生活費は今の処良い様だが、今までの様なゼイタクは出来ない様です。

いま北上市は新幹線の開通を眼の前にして、駅の改装工事の真っ最中です。新幹線の停車駅となるために地下道が出来、一段と綺麗で大きく造られている様です。それに伴なっ

-22-

て街もビルやマンションも出来、商店も綺麗に新装改築している処が多く、新幹線の止まる近代都市に生まれ変わろうとして居ります。

さて、前書きが長くなりましたが、当師会の近況をお知らせ致します。

1. 定期総会を年一回に、今までは適宜に総会を春と秋に盲協と同時に開催して居りましたが、業会と盲協とを分離するために、春に業会、秋に盲協の定期総会を、それぞれ



開催することになり春の総会に決定いたしました。

## 2. 老人ホーム慰問マッサージ

北上市に昨年移転・新築した新しい近代的な老人ホームが有り、昨年も慰問いたしましたが、今年も実施いたしました。

湯田町・湯本温泉に重度の寝たきり老人特別ホームがあり、会員の協力を得て、今年も実施いたしました。終了後に反省会を催し、軽く乾杯をして来年も亦、老人の話相手をしながら、慰問しようと言いながら解散いたしました。

## 3. 新会員紹介

今年も当師会に新らしく二人の会員が入会いたしました。

(1) 八重樫善雄（やえがしよしお）・北上市飯豊町・電話（〇一九七）六八一三六二七番・函館視力障害センター卒業。

(2) 阿部とし子さん・北上市川岸・電話（〇一九七）六四一〇一五六番・岩手県立盲学校卒業

どちらも春に自宅に開業し着々と、お得意さんを殖やして頑張っている様です。

## 4. 高令者会員

本師会では此の道一筋に数十年開業し、昨年と今年で三名が高令者会員となりました。

1 阿部信次郎さん 2 石川キミヨさん 3 佐々木のぶさん

これからも体に気をつけて、いつまでも頑張ってください。

-23-

5. 今年の春、湯田町湯川温泉で開業して居りました菅原のぶ子さんが現代風のモダンな家を新築いたしました。

6. 江釣子村の高橋辰夫氏が、二月ごろ、肘の傷をして入院いたしました。肘の方は次第に良くなりましたが、関節リュウマチが合併症となり、却却良くならず現在も入院中です。

以上、当師会の様子をお知らせいたしました。何しろ私が新人会長の為か、これといった事も出来ず困って居ります。今年は省エネ・省エネと言われ不景気と冷害が重なり、温泉客も少なく、亦地元の客も少なく感じます。お互いに不景気風に負けずに頑張りますよう。各師会の皆さん、くれぐれもお体に気を付けて頑張ってください。

## 盛岡師会

理事 三沢 五郎

師会の現況をお知らせする前に、例によって県都の変貌振りを取上げたいと思います。何故ならば業と大いに関係があるからです。

新幹線の試験列車も走るようになり、駅前再開発は具体化して来ました。開運橋と夕顔瀬橋の中間に朝日橋が架けられ落成間近、それにつれ駅前のドヤ街が取り払われて、市内のホテルも次々と建ち、正にホテルラッシュ。十七階三百室以上のホテルを初め、二百室クラスのものも十数軒に達し、元旅館は、これ等に押され廃業してゆく有様。そのため今迄出入りして来た仕事場は激減しホテルの専属化が目立っています。

是等に対処すべく師会では、これらを含めた総合対策実行委員会を作り、検討中で有ります。その他十一月九日、老人ホーム「清和荘」を訪れ治療奉仕を行ない大歓迎を受けま

-24-

した。会員も二十三名参加した。故障者も有りましたが何とか無事五五年も過ごしそうです。では皆さんもお元気で……

全盲、耳の不自由なマッサージ師

レコード歌手に！

デビュー曲は「平泉旅情」

吉田満（みつる）さん（盛岡師会）、歌手としてデビュー……読売新聞（五六・二・五）岩手版に写真入りで、「全盲・耳の不自由なマッサージ師・レコード歌手に！ デビュー曲は「平泉旅情」の見出しで掲載された。以下、記事の全文をご紹介します。

（ニュース提供・編集部）

歌が大好きで、マッサージ中にカラオケで客に流行歌を聞かせていた全盲で耳も不自由なマッサージ師がキングレコードからデビューすることになり、四日、県庁に知事を訪れ、あいさつした。

この人は、東磐井郡東山町出身で、現在、岩手郡松尾村の八幡平温泉郷に住む吉田満さん（四三）。デビュー曲は「平泉旅情」。二十一日、全国で三万枚発売される。

吉田さんは、二歳の時、病気で失明、その後、水遊び中の事故で左耳も聞こえなくなった。しかし、盲学校小学部時代に聞いた「広東エレジー」から流行歌に興味を持ち、小学部五年でこっそり NHK のど自慢に出場し、学校から大目玉を食ったこともある。

昭和三十六年にマッサージ業を開業した後も、数々の通う大会に出場。一昨年に地方新聞主催の「北奥羽カラオケ大会」で見事優勝、昨年十二月の民間放送局主催の「県歌謡王座決定戦」でも準優勝に輝いた。

こうした活躍が、キングレコードの目にとまり、昨年九月、「広東エレジー」の作曲者である吉田健治氏の作曲、たなかゆきお氏の作詞で念願のレコーディングをした。

-25-

知事室で、吉田さんから話を聞いた中村知事は、近く東京で開かれる岩手県観光と物産展で発売キャンペーンをすることを許してくれた。また、母校の県立盲学校でも、ちょうど学校創立七十周年に当たるため、「在校生の励みとなり、最高の贈り物になる」と喜んでいる。

なお、二十八日には、盛岡グランドホテルで、元盲学校長の大堂他人・県盲人福祉協会会長を發起人にレコード発売記念祝賀会が開かれる。

宮古師会

会長 中村 強眞

宮古市長・山田町長・宮古市議会議長・宮古医師会会長・そして盲人福祉協会理事長・  
県鍼灸師会理事長・同顧問・隣接師会長・その他多数の御来賓をお迎えいたしまして、創  
立七十周年記念式典を行いましたのが十一月十六日、恐らく会が結成されて初めてブツか  
ったであろう此の大きな催し物も不安と緊張に身を震わせながらも、皆様方の絶大なる御  
支援と御協力に依りまして成功の裡に終わらすことが出来たものと思ひ、ホッと胸を撫で  
下ろすと同時に、改めて皆様方に対し心より御礼申し上げます。

さて、わたくしは此の式典を迎えるにあたって、秘かに三つの目標を立てて居りました。  
その一つは、老いも若きも会の発展のために尚一層団結して事に当たって欲しいこと。亦  
二つには、新会員が会を背負って行こうという意識に燃えてほしい事。三つには、来賓を  
通して会の存在を PR し、何かの為に、役立たせるキッカケを作る事。此の目標が一日で  
も早く具体的なものになって欲しいと期待し、努力もしなければならぬと思つて居りま  
す。

-26-

## 一の関師会

会長 北峰 忠志

県下鍼灸師会・会員の皆様には益々御健勝の事とお慶び申し上げます。

当師会の会員も業友も矢張り冷害の風に吹かれながらも、よく頑張つて居ります。また  
最近では機械や類似行為の諸業に客を奪われる等（など）三療業者は苦しい立場にあるのが  
現状のようです。金ヶ崎に開店した「オガクズ風呂」は、マイクロバスで方々から客を集  
めてゆき、その効果は評判は有効無効が半々のようです。私（わたくし）達は今こそ無免  
許やそれに類する業者に厳しい監視の眼を向けなければならないと思ひます。

次に当師会の事業内容を御紹介いたします。

一月十三日 市内巖美溪・簡易保険保養センターにて新年会を開く。この席で、料金を  
改訂し、通りゃんせ基金に募金をする事を申し合わせた。会場は春のような暖房に包まれ、  
宴会は今年「申年」の工藤六雄（むつお）さんの音頭で乾杯をし、カラオケも登場して楽  
しく新春を祝つた。その後は横になる人、風呂に入る人、時間まで思い思いであった。

四月三日 野球の練習を始める。

四月二十日 市内「ハチミンク会館」に於いて、第六十四回定期総会を開く。此の度、  
新しく入会された会員は次の七名である。

千葉謙一・高橋久喜（ひさき）・及川清隆・工藤勝雄・戸沼常吉（とぬまつねきち）・大友  
武志（たけし）・大友キサ子。また此の席で「愛のシグナル」の寄贈者一の関中央ライオン  
ズクラブに感謝状を贈つた。

六月二十九日 今年一回目の慰問治療を行なつた。慰問先は東山（ひがしやま）町の東  
山（とうざん）荘老人ホーム。なお、午後は平泉の国民宿舎「平泉荘」に足を伸ばし反省  
会を行なつた。往復のバスは市より借り受けた。

-27-

八月八日 新築オープンされた市役所を一時間半に亙り見学した。

九月七日 今年二回目の慰問治療を行なう。慰問先は前回と同じ。なお午後からは市内「かどや食堂」に席を替え、秋の総会を開いた。この席には大堂先生・菅野先生が来席され、ガイドヘルパーに就いて、お話しをされた。

十二月十一日 一の関中央ライオンズクラブより点字図書購入代として、市の図書館に十万円が贈られ、これからは見たい専門書・教養書などが、身近かな処にあるので会員は喜こんでいる。なお、此の寄附は毎年継続されるとのこと。その他、業友・舘下正則さんは市内宮下町に豪華な家を新築され、十一月中に新宅に移転する。業友・高橋久喜さんは、十二月始めにお嫁さんを迎えられ結婚式を挙げられた。

### 《全鍼連の法人化延期に思う》

十二月一日に配布された全鍼連情報によると、予定されていた十月十一日の全鍼連の法人化は延期されたと報じられている。

日鍼・日盲の両会の不信によるものと報じられているが、日鍼会の協調性も相容れないものがあるが、日盲連の反撥と不信は同じ障害者同志とは思われない程強い。今年七月、松島で開かれた東鍼連大会の席で関野会長は、日マ会の決定や、それへの加入など確かに消極的と思われる話をして居られたが、此の言い方も会を納得させる方便であったと私は思っている。実際に吾々業界を統括し発展させて行くには全鍼連と日鍼会の二会で足りるのではないだろうか。わざわざ業界を三本立てにする必要はない。全鍼連は視力障害者を多く宿して居り、障害者の利益向上の願いは日盲連にお手伝いを頂く程、全鍼連は力が無い訳ではない。業界を掻き回される事こそ有難迷惑なのである。日盲連は、今こそ小異を捨てて本流たる全鍼連を押し大同に付くべきである。こうなってしまった以上は此の熱が冷めるまで全鍼連は先ず時期を待つ可きである。仮令（たとえ）法人化が遅れ保険取扱

-28-

かい協定が遅れるとも、少々の犠牲は仕方がない。そしてそれでも駄目であれば、全鍼連会員は日盲連から脱退するのである。或いは、各県の盲協が日盲連から抜けるのである。我々は強い決意を持って悔いを残さない様に焦る事なく進むべきである。日盲連は初心に帰り「業」は業界に任せ側面から手を貸して欲しい。

胆江師会

会長 菊地 安夫

胆江師会・定期総会

三月十六日、午後一時より会員三四名中二九名出席（委任一名・欠席四名）

議長 副会長 高橋 等（ひとし）

承認案

1. 昭和五四年度庶務報告
2. 昭和五四年度収支決算報告

監査報告 奥友清氏（きよし）

議 事

第一号議案 昭和五五年度事業計画案

- 1 社団法人岩手県鍼灸師会総会への参加
- 2 老人ホーム慰問奉仕治療を年二回行なう
- 3 研修会を年二回実施する
- 4 レクリエーション（新年会・芋の子会）
- 5 慶弔に関する事業
- 6 その他必要と認めたる事業

第二号議案 昭和五五年度予算案

第三号議案 治療料金の改正

初見料 三〇〇円

鍼灸 一、五〇〇円以上二、〇〇〇円

按摩 全身 一、八〇〇円以上

マッサージ 半身 一、三〇〇円以上

住宅料 2K まで六〇〇円、1K 増す毎に三〇〇円

昭和五五年四月一日より実施する

-29-

第四号議案 その他

- ◎総会終了後午後三時に懇親会を開催（二四名参加、会費二、五〇〇円）  
午後五時・盛会裡に終る。

老人慰問奉仕及び研修会の開催

十一月二十三日（日曜）此の日、当師会では、午前中は老人慰問奉仕、午後からは研修会を行なった。

老人慰問奉仕は、水沢市見分森にある老人ホーム青水荘・立生（りゅうせい）宛に出かけ、多数の老人を治療する。午後は、石川文治先生宅を借り、研修会を行なった。

研修会は、鍼灸とマッサージの二部会とした。

研修会のテーマは次の通り。

「鍼灸」 頭痛 星状神経節刺鍼

講師 菊地 安夫・今野 進

「マッサージ」 頭痛 五十肩

講師 高橋 辰夫

千葉義雄氏（大正七年四月十三日生）

水沢市大日通り一丁目一〇一二五

肝臓病のため加療中の処、薬石効なく、昭和五五年八月十二日、逝去されました。  
茲に深く故人の御冥福を祈念しつつ、謹んでお知らせ申し上げます。



## 気仙師会

会長 佐々木 吉男

一九八〇年代に突入し、吾々業界を取り巻く状況は複雑そして変化の早いのに、些さかとまどって、会員の諸君も説明の方法に苦勞するのが現状ではないでしょうか。同じ会員が日盲連・全鍼連、この二つの団体に加入していると言うことは、スタートの時点から判っている事で、点毎紙上で報道されている様に日盲連の幹部の方が、全鍼連は盲人を代表する団体ではないとの発言があったとか。正に其の通りで、そもそも全鍼連は晴盲一体の

-30-

団体であり、その辺に日盲連幹部の方々の思い違いがあるのでないでしょうか。吾が岩手に於いては、待望の法人化も認められ各会員は目的を果たす為の責任、そして義務、その為の犠牲と苦痛は覚悟が出来ていると思います。只、問題なのは今の張り詰めている状態が何時まで続くかという事が、フト脳裡に浮かぶのは不勉強な愚生のみでしょうか。船に譬えるなら、帆網に、乗組員たちが手をかけているのです。

本部役員の方々には本当に心から日頃の御苦勞に感謝と敬意を表します。

次に新会員のお知らせですが、宮古市の加藤病院に勤務されて居られました金野（きんの）ヤス子さんが五十五年二月より地元の高田町に開業（リアス治療院）と命名し、明るい性格に加え趣味も広く、我が師会の大きな力と期待して居ります。電話〇一九二五（五）四〇九五です。私ごとになって恐縮ですが、家庭環境の不行届の愚生に、何かと誉め励ましの電話や御手紙を頂戴いたし、心より此の紙上を借りて御礼申し上げます。

皆様の健康と繁栄を御祈り申し上げます。

## 花巻師会

会長 多田 兼雄

豊沢の 潔き流れに 鯀（かじか）鳴く

けむる 出湯に 遊ぶカモシカ

燃ゆる様な紅葉（こうよう）、スキー場のある高倉山、観光都市・花巻温泉郷には、三療花巻師会がある。二十名近い会員は皆健康で、各々その職場に於いて社団法人の目的たる日本国民の健康維持と増進に誇りと使命を持って頑張っている。

三十年以来、六十年以来と騒がれた冷害も吾が業界には、左程影響も与えなかった。然し異状気象余波は会員三名の、配偶者たちを病院に押しやった、一ヶ月足らずの入院で済んだとはいえ、家族たちは互いに励まし合い、助け合いながら独身時代の経験を生かして

-31-

炊事・掃除・洗濯と不安の日々を送らなければならなかった。

さて、事業はと言えば色々計画も建て実行も試みたが、その収穫は得られなかった。

新緑五月・葉桜の頃、釜石師会の皆さんが当地大沢温泉を訪れ総会を開かれた。花巻師

会も招待を受けて多田会長と鞠子副会長が出席して酒を汲み交わしながら友好を深めた。

照井博氏は、私（わたくし）の竹馬の友であるが、三十年振りに手を取り合って無事を喜び合った。

七月二十二日、その日は老人ホームを慰問する日だった。会員一同準備完了、明日を待っていた処、その前夜突然ホームから、電話があつて中止となる。八十三才の〇（おう）さんが亡くなったから延期して欲しいとの事であった。 暦を見たら仏滅。

八月二十五日、盲会・業会合同に依るレクリエーションの一環として「鮎喰大会」を行なった。夏とは言え、冷たい霧雨けむる東和（とうわ）町に、ゆく道々冷害を心配しながら、会員ならびに家族総勢二十数名、全員集合「こうわ苑」の大広間に案内された。間もなく哀れにも全身に塩のサービスを受け火あぶりの刑に処せられた鮎子・虹男のアベックは、何分か前までの優雅な姿を誇るように尾をピンとはね上げて我々の御（み）前に供えられた。熱い岩手川の流れに沿い高速縦貫・食道を通過し胃の腑に治まった。

一同和気あいあいの裡に心ゆくまで賞味した後、釣堀りに向つた。糸をたれ、竿を握りしめたらグイグイ引く力強い手ごたえ、釣り上げて見たら全身四〇センチぐらいもある鯉殿。びっくりした途端、尻餅をつき大笑い。毎日の厳しい生活を、不景気を吹き飛ばす様な明るい楽しい一日を過ごし、明日への活力を養い、お互いに健康で理療の道に励むことを手と手とに感じつつ……早々の帰路に着いた。

-32-

## 釜石師会

会長 越本 政男

合理化を打ち出した新日本製鉄(株)釜石製鉄所は、五五年三月三十一日、遂に大型工場を閉鎖し従業員の配置転換を行なった。人口流失に歯止めを掛けることの出来なくなっている釜石から一三〇人の従業員が家族と共に去って行った。冷夏は海水浴客を寄せつけず、物価の高い釜石に住む庶民の生活防衛の意識向上なのか、盛岡方面で買物をする傾向が強くなり商店街の売上げが激減し、百年の老舗（しにせ）を誇る「及新」で知られた「オイシンマート」が十四億の負債を抱えて十一月末に倒産するという暗い厭なニュースで一九八〇年は暮れて逝つた。でも、そんな中にも明るいニュースもあつた。日鉄鉱業釜石鉱業所が合理化を打ち出し、新会社を作り三年だけの操業計画で発足したのが、業績が予想を大きく上回つたこと。新らしい鉱脈の発見等も重なって、当分操業出来ることになったこと。新日本製鉄所(株)釜石製鉄所の野球チームが、後樂園球場で開かれた都市対抗野球大会に、東北地区の第一代表として出場し、強豪を打ち破り準決勝まで勝ち進んだ快挙に市民は熱狂した。また同じ釜鉄のラグビーチームは、本年新春に社会人日本一となり、更に成人の日には同志社大学と闘い、三年連続日本一の偉業を成し遂げた。市民は不景気を吹き飛ばし、街は興奮の坩堝（るつぼ）と化した……でも、こんな厳しい不況下の釜石市内にあつて、吾業友は逞しく頑張つて居ます。

## 五五年度定期総会

本会結成以来はじめて釜石を飛び出して、他の地区で総会を開いた。花巻師会会長の多

田兼雄氏の御世話で五月二十四日（土）午後、花巻市大沢温泉「山水閣」で総会を開催しました。総会終了後、花巻師会の正副会長が来賓として出席され、懇親会を開催し、花巻

-33-

師会と共に楽しい晩春の一夜を過しました。恰かも「山水閣」の庭には、「つつじ」の花が美しく咲き乱れ、盛夏に近い暑い日でした。花巻師会より過分なる金品を頂きました。紙上をお借りして御礼申し上げます。

#### 老人ホーム への慰問奉仕治療

十月四日（日）午後一時に、市内鶉住居（うのずまい）町にある老人ホーム五葉（ごよう）寮に会員が出かけ、老人の皆さんを治療しました。また、来たる二月中旬には、市内大畑（おおはた）にある特別老人養護ホーム「清風（せいふう）園」に出かける予定になっています。

#### 会員の近況

岩間悟郎氏（当師会副会長・新日本製鉄(株)釜石製鉄所附属病院勤務）同氏の奥さんが骨折のため、昨春より入院中で、何十年か前の独身生活？……いや、その頃は下宿生活の気楽時代、それとは遠かな……炊事・洗濯・掃除の悪戦苦闘中。でも一日も早い奥さんの御退院を御祈りします。

相の山啓子さん。相の山さんは、御主人が花巻の国立温泉病院に勤務され、息子さんと共に、土曜にお帰りになる御主人を待ちながら、釜石市の中心街に開業されておられますが、昨秋より旧宅を売却され、新たに花巻市四日町三丁目に豪邸を新築中です。やがて一家三人して新居で楽しくお暮しになる時が来る日を、相の山さんは楽しみに張り切って働いて居られます。

寄松忠氏は、昨秋十一月八日に、点字講習や色々な社会奉仕をする会「草の芽会」の会長として、永年に亘る功績が認められ釜石市長より表彰されました。

照井博氏は、五六年二月二日に長年住み馴れた釜石を去られ、本会を退会されました。照井氏の愛娘さんが愛知県小牧市に家を建てて居られ、予ねてより同居する事を奨めて居られた話は照井氏夫妻より聞いて居ましたが、愈々その気になり旅立ってゆかれました。本会では昭和二十七年創立当時の会員として、今日まで長い期間ご協力を頂き、亦、

-34-

業友として御交誼を頂いて来ただけに訣別は忍び難く、お留めし度い思いで一杯でした。一月二十五日（日）午後一時に、市ない中妻（なかづま）町にある料亭「小糸（こいと）」に照井氏夫妻を招いて会員一同が集まり送別会をしました。照井氏御夫妻の御健康と御幸福をお祈りします。照井氏の移転先は次の通りです。

愛知県小牧市上未三四五〇の七〇八

照井幹三様方へ

飯田ノブさん（飯田直志氏夫人）の御母堂が、一月十日早朝に急逝されました。八十五歳の高令でしたがすこぶる御元気で居られただけに、突然の死は飯田ノブさんには可成りのショックで痛々しくお気の毒でした。一時は食事も喉を通らず悲しみに打ち萎れて居られたが、二月七日に私が伺がった時は、可成りご元気になられた様子でしたので、ホッとしました。御母堂様の御冥福をお祈りいたします。

以上、釜石師会の近況をお送りしました。会員各位の御健勝を祈りながら……ペンを置きます。

昭和五十六年一月二十七日 記

事業部より

鍼灸・マッサージ師賠償保険に加入しませんか。

治療中に不幸にして、思わぬ事故に遭遇した時、あなたはどうか対処しますか？……

こんな時にこそ、鍼灸・マッサージ師賠償保険に加入していれば安心です。多様化する事故から治療院を守るために、あなたも加入しませんか。全鍼連と日鍼会が大正火災海上保険株式会社の協力を得て創った会員のための我国で唯一の全く新しい保険です。安心して加入出来ます。次をお読み下さい。

-35-

◎この保険の対象にならないのは……

この保険では次のような事故や賠償責任は対象になりません。

- 保険のご加入者が故意におこした事故
- 名誉毀損、秘密漏洩に起因する賠償責任
- 業務の結果を保証することにより加重された賠償責任
- 自動車事故
- 鍼灸按マッサージ師、助手などが就業中に被った傷害
- 認可を得ていない鍼灸按マッサージ師が行った業務によって生じた賠償責任
- 外科的手術、薬品の投与もしくはそれらの指示を行うことによって生じた賠償責任

◎保険料（掛金）と支払限度額は

診療所一店につき、1年間の保険料と、事故のときお支払いする金額の限度額は次のとおりです。（全国一斉の契約となりますので最高の割引率を適用しております。）

最近の賠償額の高額化をみますと（高額お支払限度額のセット）の申込みをされた方が安心です。

セット			50	30	20	A	C	
年間保険料			5,400円	4,330円	3,790円	3,260円	2,970円	
お支払い限度額	鍼灸按マッサージ業務に基づく事故	対人	1事故	5,000万円	3,000万円	2,000万円	1,000万円	500万円
			1年間	15,000万円	9,000万円	6,000万円	3,000万円	1,500万円
	建物や設備に基づく事故	対人	1名	2,500万円	1,500万円	1,000万円	500万円	250万円
			1事故	5,000万円	3,000万円	2,000万円	1,000万円	500万円
		対物	1事故	500万円	300万円	200万円	100万円	50万円

- ・建物や設備に基づく事故のときは、1事故につき1,000円は、ご加入者にて自己負担していただきます。

-36-

詳細は左記にお問い合わせ下さい。

大正火災海上保険株式会社・盛岡営業所

〒〇二〇 盛岡市中央通三の三の二六

鹿島大和（かしま・だいわ）ビル六階

電話（〇一九六）二二一三一三五番（代表）

◎長尾栄一博士（筑波大学助教授）の録音テープ

昨秋九月二七・二八の二日間に亘り、長尾博士をお招きして、岩手県盲人福祉協会と本会との共催で行なった講習会の録音テープを、岩手県立点字図書館に寄贈して置きましたので御利用下さい。尚、テープは四巻です。

この寄贈に対し、県立点字図書館長より御丁寧な御礼の御手紙を頂きました。

◎鍼灸マッサージ新聞を購読しませんか。

正しい情報を知り行動するために、是非、購読をお奨めします。

今すぐ左記に購読を申し込んで下さい。

〒六〇一 京都市南区東九条松田町 一三八一五

鍼灸マッサージ会館内

日本鍼灸マッサージ新聞社

電話（〇七五）六七二一四一六四番

振替口座 京都 二八六二八番（毎月一回 十日発行）

定 価 一ヶ年（前金） 一、八〇〇円

点字版 一ヶ年（前金） 二、四〇〇円

-37-

MEMO

昭和55年10月1日、国勢調査による、岩手県の総人口および、県内支部別人口ランク、東北の市部別人口ランク。

（注）世帯の定義は、前回50年は会社等の独身寮居住者に対し、棟ごとにまとめて1世帯としたが、今回は1人1人を1世帯とし、この定義に基づいて50年の世帯数も組み替えてある。

昭 和 55 年							昭 和 50 年			昭和50年 との比較 増減 (%)	
世帯数	総人口	男	女	人口密度（一平方キロ当たり）	性比（女百人につき男）	一世帯当たり 人員	世帯数	総人口	一世帯当たり 人員	世帯数	総人口
										397,576	1,421,969

東北の市別人口ランク

市	人口	前回人口	増減率
①仙台市	667,799	615,473	8.0
②いわき市	343,076	330,213	3.6
③青森市	287,609	264,222	8.9
④郡山市	286,497	264,628	8.3
⑤秋田市	284,830	261,248	9.0
⑥福島市	262,847	246,531	6.6
⑦八戸市	238,208	224,366	6.2
⑧山形市	236,984	219,773	7.8
⑨盛岡市	229,123	216,223	6.0
⑩弘前市	175,330	164,911	6.3
⑪石巻市	120,693	115,085	4.9
⑫会津若松市	114,534	108,650	5.4
⑬酒田市	102,600	97,723	5.0
⑭鶴岡市	99,751	95,932	4.0
⑮泉市	98,015	70,087	39.8
⑯米沢市	92,824	91,974	0.9
⑰大館市	72,480	71,828	0.9
⑱花巻市	68,875	65,826	4.6
⑲気仙沼市	65,559	66,616	△2.9
⑳釜石市	65,250	68,981	△5.4
※㉑宮古市	62,478	61,912	0.9

-38-

岩手県内市部別人口ランク

市	人口	前回人口	増減率
①盛岡市	229,123	216,223	6.0
②花巻市	68,875	65,826	4.6
③釜石市	65,250	68,981	△5.4
④宮古市	62,478	61,912	0.9
⑤一関市	60,217	59,122	1.8
⑥水沢市	55,226	52,266	5.6
⑦北上市	53,647	48,759	10.0
⑧大船渡市	40,023	39,632	1.0
⑨久慈市	39,016	38,122	2.3
⑩江刺市	35,738	36,336	△1.6
⑪遠野市	31,059	31,583	△1.7
⑫二戸市	30,338	30,048	0.9
⑬陸前高田市	29,357	29,438	△0.3

注：△は減を示す

市部の人口数 800,347人

郡部の人口数 621,622人

岩手県の施術者数

1. 按摩マッサージ指圧者数 480人（うち晴眼 272）
2. はり師 212人（うち晴眼 120）
3. きゅう師 208人（うち晴眼 119）

全国施術者数

	晴眼	盲人 (%)	総数	人口10万単位
1. あん摩・マッサージ指圧	40,876人	39,247 (49.7)	80,123人	68.8
2. はり師	26,952人	19,389 (41.8)	46,341人	39.8
3. きゅう師	26,751人	18,065 (40.3)	44,816人	38.5

-39-

岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会各師会料金

師会名	初見料	鍼灸	按摩マッサージ	往療料	旅館	リベート
盛岡		2,200	2,200	300以上		
県北		1,800	1,800			100
花巻		2,000	2,000			100~200
北上		1,200以上	1,200以上 1,800	200	2,000	100
胆江	300	1,500以上 2,000	1,300以上 1,800	600	2,300~3,000	100
一関	500	2,000	1,500	500		
東磐		1,200以上	1,500	500		
遠野		1,000以上 1,500	1,000以上 1,500		2,000	
久慈	200	1,800以上 2,000	1,600以上 2,000	200	2,000	
宮古		1,700	1,700	300	2,300	
釜石	500	1,500	1,700		2,500	
気仙	1,000	2,500	1,500	500	3,000	

-40-

## 編集後記

一月二十一日、待望久しかった全鍼連の法人化が実現しました。迂余曲折のあとだけに、喜びは大きい。会員諸氏もホッとされたことと思います。北峰理事より法人化問題で厳しい論評を書いたので撤回したい旨の申し入れがありました。その様な配慮は不必要ですと断りました。会員であればこそその論評であり、会を愛しているからです。末端会員の情熱がある限り我が全鍼連は不滅です。若し、幾年かの後に後輩が吾業界を背負った時に、全鍼連法人化の経緯に就いてその歴史を探ろうとした時、北峰理事の書かれた論評は生きて呉れると思います。私はそんなことを考えながら会報の編集をしている積もりです。会報はそんな意味の為に作られる可きではないでしょうか。今後共大いに全鍼連や本会を批判し論評する原稿を送って頂く事を会員の皆さんにはお願い申し上げます。

今回、会報第十三号を発行する事が出来たのは、何時もながら会員の皆さんの御協力のお蔭です。有難うございました。昭和五五年を振り返ってと題して、写真を取り入れて見ましたが如何御覧頂けますか。この点に就きまして第十四号編集の参考に致したいと存じますので御意見やご批判を事業部まで御寄せ頂きたいと存じます。末筆ながら会員の皆様方の御健勝をお祈りしつつ、編集後記と致します。

編集責任者・事業部長・越本政男

-41-

社団法人・岩手県鍼灸按摩マッサージ指圧師会

昭和五五年度・会報第十三号

事務所 〒〇二〇 盛岡市高松四丁目一八番二二号（渋川澄意方）

電話（〇一九六）六一一四五二一番

事務局 〒〇二〇 盛岡市北山一丁目一〇番一号

（県立盲学校内）下佐 征昭

発行人 理事長 石川 文治

〒〇二三 水沢市中町一六七

電話（〇一九七二）三一五七二二番

編集責任者 副理事長（事業部長）越本 政男

〒〇二六 釜石市中妻町二丁目一番二六号

電話（〇一九三）二三一六四三九番

昭和五六年二月二五日 発行

印刷 青木印刷

〒〇二六 釜石市中妻町二丁目四番二五号

電話（〇一九三）二三一六六八七

-42-



広告

鍼灸医療に奉仕する医療器械の総合商社

<主営業品目>

○針及び針灸具

○消毒装置

○電気治療器

○温熱療法器

○治療室諸設備

○物療器具

有限会社 ヤマキン

〒034 青森県十和田市大字相坂字相坂 90

電話 01762 ③ 9138・③ 0813

郵便振替 盛岡 597 番